

聖書研究祈祷会

2025/12/17 奨励:松並徹治

題:「御顔をエルサレムに向けて」

聖書:ルカの福音書 9章 51節

この一節は、イエスの地上での歩みが、
大きく、大きく転換する、まさに「方向が決まった瞬間」を描いています。
ここからイエスの視線は—、エルサレムへと定められていきます。

1, 天に上げられる日の様子はどうでしたか。

(使徒 1:9)

ルカの9章51節は、十字架・復活・昇天へと至る一連の救いの出来事が、もうすぐ始まる——その予告のような場面なのです。

2, 近づいて来た

イエスが十字架にかかるのは、どんな時期でしたか。
(マルコ 14:1)

「近づいて来た」とは、救いの歴史がいよいよ動き出すその時が、
すぐそこまで迫ってきたことを示しています。

新約聖書は、この出来事をイエスに重ねて語っています。
(I コリント 5:7)、(ヨハネ 1:29)

まことの小羊であるキリストが、十字架で血を流される。
旧約と新約が重なり、神の計画がひとつにつながる瞬間が近づいていた
のです。

3, イエスにとってエルサレムとはどんな場所ですか。

(マルコ 10:33～34) (ルカ 13:34)

人間的に考えれば、誰も向かいたいとは思わない場所です。
しかしイエスは、そのすべてを知っておられました。

イエスはエルサレムを深く愛しておられ、その愛を拒むエルサレムを見て深く悲しまれた。愛がなければ、悲しみも生まれません。深い悲しみは、深い愛の証拠です。

4, 御顔をエルサレムに向けて

主が御顔を向けられるとはどんな意味がありますか。
(民数記 6:24～26) (エゼキエル21:2)

民数記はアロンの祝福と言われている箇所です。祭司アロンが民を祝福しています。イエスも私たちを祝福するためにご自身をささげられました。(ヘブル 9:12)

エゼキエルは人々に厳しい裁きのメッセージを語らなければなりませんでした。

顔を向ける=決意をもって向き合う、逃げないで語るそれがエゼキエルに与えられた使命でした。

私たちもイエスの祝福と恵みの十字架を、逃げないで、決意をもって語る者とさせていただきましょう。

イエスは御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれました。その決意は、あなたを救うための決意でした。

イエスがエルサレムに向けて御顔を定められたのは、
あなたを救うため。あなたを愛するため。
あなたに永遠のいのちを与えるためでした。

私たちの人生にも、「どうしても行かねばならない道」があります。避けたいと思う時もあります。しかし神が示す道だと信じるとき、私たちは決断します。その道の先には痛みや犠牲があるかもしれません。拒絶される経験もあるでしょう。それでも、真の愛に基づく決断は、困難を乗り越えさせます。

主がエルサレムへと御顔を向け、毅然として歩まれたその決意を思い起
こしつつ、
私たちも日々与えられる道を歩んでまいりましょう。